

IMF サーベイ

IMF-日本奨学金プログラム

20周年を迎えた、 IMF と日本の能力構築での協力



東京大学の合格発表。東京大学は、JISPAと提携する4大学のうちのひとつ（写真：Kenichiro Seki/Xinhua Press/Corbis）

2013年10月29日

- アジアの政策立案能力の向上を支援する日本がスポンサーとなっているプログラムが20周年を迎えた
- 研修の一環であるセミナーやアウトリーチ活動にIMFスタッフが参加
- 600人を超えるプログラムの同窓生の多くが高レベルのポジションで活躍

今年創設20周年を迎えた日本－IMF奨学金プログラムは、これまでにアジアの600人以上の若手行政官の政策立案スキルの向上を支援してきた。

日本－アジア奨学金プログラム（JISPA）は、日本政府が資金を拠出し、IMFのアジア太平洋地域事務所（OAP）が運営する能力構築のためのイニシアティブである。1993年の創設当初の目的は、計画経済の市場経済への移行の支援だった。

以降、プログラムの同窓生の数は数百人を超え、その多くが母国でシニアポジションについている。

2009年にはプログラムの資格対象範囲が拡大され、現在ではアジア24カ国及び一部太平洋島嶼国の若手行政官が応募することができる。

日本における大学院課程

JISPAは、財務省や中央銀行その他の主要経済機関の若手行政官を支援対象としている。候補者は、母国で政策形成に貢献できる能力を示すとともに、日本で学んだ後、母国の機関に勤務することにコミットしなければならない。

提携する、一橋大学、国際大学（IUJ）、政策研究大学院大学（GRIPS）、および東京大学の4大学のいずれかの修士課程で学ぶ学生約35人に毎年奨学金が支給される。日本の大学（特に指定はない）の博士課程出願者にも少数だが奨学金が支給される。

10月に東京で開かれたJISPA新規奨学生歓迎レセプションでオッドパー・ブレック OAP所長は「これまで20年間で、23カ国・600人余りの行政官がJISPAプログラムで学び、その多くが極めて高いポジションで活躍していることを大変誇らしく思う」と述べた。

JISPAの実効性を高める

IMFは、JISPAで学ぶ政策立案の実務的側面の強化に貢献している。JISPA運営の責任者であるジョバンニ・ガネリOAPシニアエコノミストは「JISPA奨学生を対象とした、OAP或いはアジアへのミッションの途中で東京に滞在するIMFスタッフによる特別セミナーを定期的開催している。直近のトピックは、労働市場改革、金融部門の課題、医療支出改革、資本フロー管理などとなっている」と述べた。

「さらに、JISPA奨学生に、OAPが東京で主催する他の能力構築関連・アウトリーチ関連のイベントへの参加も呼びかけている。また、大学のカリキュラムが現在の政策課題を確実に反映するよう、大学との連携も進めている」

以上に加え、OAPは奨学生の日本での実際の生活も支援する。実際にコースが始まる前に、JISPA奨学生は、新潟県のIUJで行われる2ヵ月半のオリエンテーションプログラムに参加し、学問を行う上で必要な英語、数学、コンピュータスキルを身につけるためのクラスや、基本的な日本語や文化に関するクラスを受講する。

JISPAの日常的な運営を担当しているOAPの金 彩香プログラムオフィサーは「OAPのスタッフは、オリエンテーション期間中やその後の大学院での課程期間にキャンパスを訪問し、奨学生が抱える問題を把握し解決に向け可能な限り支援する」と説明した。

政策立案に貢献する同窓生

JISPA 同窓生の中には、母国の政策形成に多大な影響を与える極めて高いポジションで活躍している者もいる。

1997年に埼玉大学政策科学研究科（GRIPS 前身機関）で学んだベトナム国家銀行のレ・ミン・フン副総裁は「これまでキャリアを積むなかで、JISPAで学んだ政策立案のための知識とツールそしてリーダーシップスキルは、要求水準が高く多くの専門分野にまたがる政策業務で大きく役立ってきた」と述べた。

同じく JISPA 同窓生でモンゴル財務省金融政策及び債務管理局の局長を務めるドルジハンド・トグミド氏は、2004 年に一橋大学を卒業した。同氏は「JISPA が私のモンゴル政府内でのキャリアに極めて大きく役立ったことを深く感謝している。日本での学生生活は、新たな知識や経験の学習を存分に行えた極めて有意義なものだった」と述べた。

地域レベルでの政策協調

JISPA の学生が構築するネットワークは、アジア地域全体の政策形成の向上に貢献してきた。フン副総裁は「我々は皆、強力で団結力のある JISPA 同窓生のネットワークを作ろうと心がけている。JISPA 同窓生は、アジア太平洋地域全体の繁栄に向けて国の発展に寄与するべく相互に協力するであろう」と述べている。

JISPA のレセプションでスピーチを行った財務省の山崎達雄国際局長もやはりこの点に言及した。「ここで学び経験したことは、奨学生の母国と日本を永遠に繋ぐ架け橋となり、国際的な政策協調を促し、奨学生の母国のみならず日本にも恩恵をもたらすことになろう」

関連リンク：

[JISPA について](#)

[出願方法](#)

[IMF・OAP 事務所](#)

[日本と IMF](#)